

## ワークショップ 11

### 「機能性腸疾患における診断と治療の進歩」

司会 藤原 靖弘（大阪市立大学消化器内科学）

最近の疫学調査では、機能性腸疾患の世界的有病率は 33.4%であり、日常的に遭遇する疾患である。Rome IV 基準では過敏性腸症候群、機能性便秘、機能性下痢、機能性腹部膨満、非特異的機能性腸障害、オピオイド性便秘に分類される。これらの機能性腸疾患の診断と治療について新たな視点からの臨床研究の成果を公募します。